

1

令和4年度の除雪体制

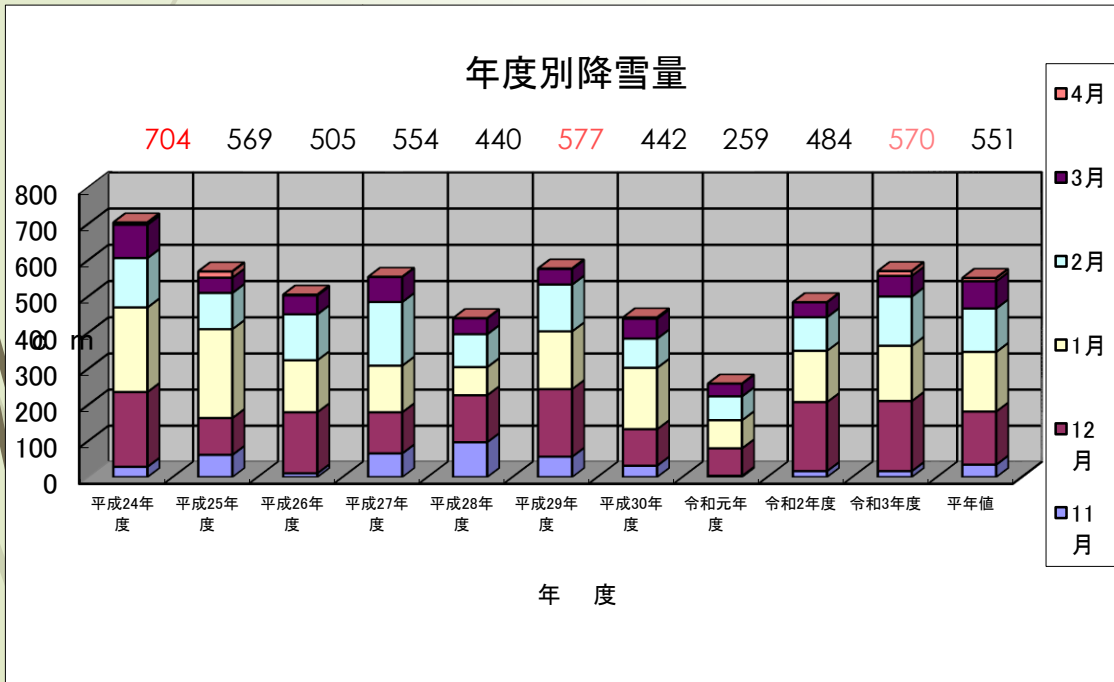
令和4年1月上旬早朝の積雪状況



昨シーズンの降雪・積雪状況

- 令和3年度の累積降雪量は570cm
- 過去10年で3番目に多い
- 12月の降雪は16日以降の短期集中

- 最大積雪深151cmで平年値の約1.7倍
- 日降雪量15cm以上が12月後半に8回
- 2月上旬3日間60cmの降雪で積雪急増



最深積雪 (cm)						降雪量 (cm)					
月日	R3年度	月日	R3年度	月日	R3年度	月日	R3年度	月日	R3年度	月日	R3年度
	1 1	111	2 1	107		1 1	4	2 1	1		
	1 2	102	2 2	109		1 2	4	2 2	6		
	1 3	86	2 3	119		1 3	2	2 3	13		
	1 4	88	2 4	135		1 4	13	2 4	21		
	1 5	105	2 5	151		1 5	17	2 5	26		
	1 6	100	2 6	151		1 6	0	2 6	4		
	1 7	93	2 7	148		1 7	0	2 7	3		
	1 8	92	2 8	151		1 8	6	2 8	13		
	1 9	92	2 9	150		1 9	6	2 9	2		
	1 10	92	2 10	145		1 10	4	2 10	0		
	1 11	91	2 11	138		1 11	5	2 11	0		
	1 12	97	2 12	135		1 12	9	2 12	0		
	1 13	99	2 13	137		1 13	10	2 13	5		
	1 14	101	2 14	135		1 14	7	2 14	1		
	1 15	102	2 15	132		1 15	3	2 15	0		
12 15	0	1 16	100	2 16	129	12 16	9	1 16	1	2 16	2
12 16	0	1 17	98	2 17	124	12 17	23	1 17	3	2 17	1
12 17	9	1 18	94	2 18	128	12 18	27	1 18	2	2 18	6
12 18	28	1 19	92	2 19	127	12 19	0	1 19	0	2 19	0
12 19	53	1 20	91	2 20	129	12 20	19	1 20	0	2 20	6
12 20	46	1 21	97	2 21	123	12 21	2	1 21	9	2 21	8
12 21	54	1 22	99	2 22	130	12 22	7	1 22	2	2 22	4
12 22	52	1 23	97	2 23	138	12 23	19	1 23	5	2 23	9
12 23	54	1 24	97	2 24	136	12 24	21	1 24	1	2 24	2
12 24	62	1 25	95	2 25	131	12 25	7	1 25	2	2 25	0
12 25	76	1 26	108	2 26	128	12 26	16	1 26	17	2 26	0
12 26	81	1 27	110	2 27	116	12 27	24	1 27	2	2 27	2
12 27	81	1 28	113	2 28	115	12 28	5	1 28	7	2 28	1
12 28	94	1 29	111			12 29	4	1 29	2		
12 29	94	1 30	109			12 30	6	1 30	4		
12 30	88	1 31	110			12 31	3	1 31	6		
12 31	87										

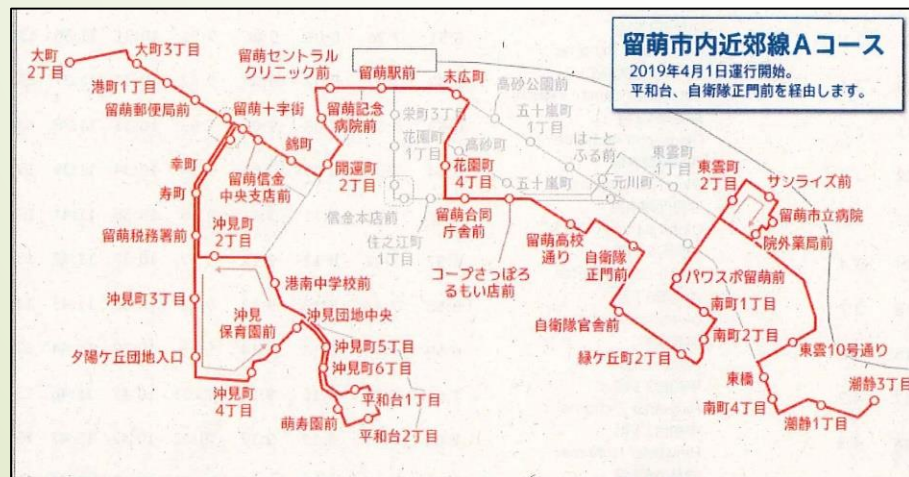
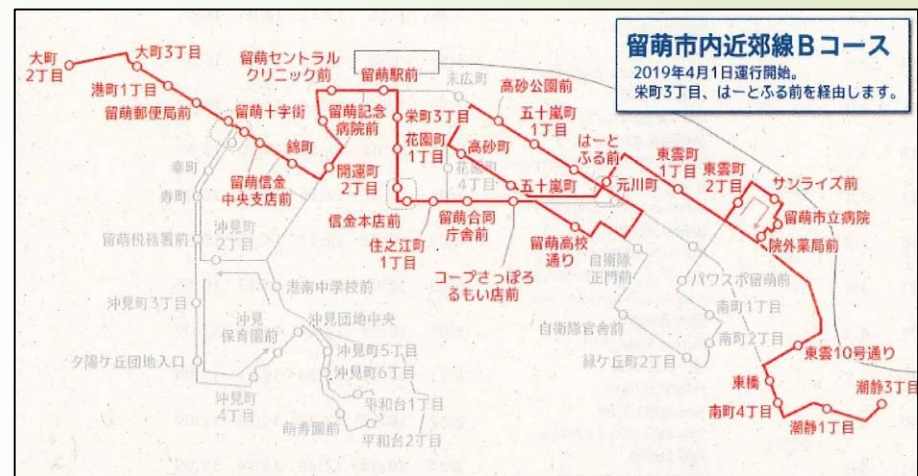
10年中最多積雪日
R3最深積雪

12/31は欠測記録

高積雪に伴う市内路線バスへの影響

市内路線バスの運行停止

Aコース	Bコース	日東団地線
12/28		
1/4～1/23	1/4～1/18	1/4～1/21
2/5～2/15	2/7～2/15	2/7～2/15
2/21		
全面運休 33日	全面運休 18日	全面運休 21日



課題と原因分析

課題

各課題が相互に絡み合い悪影響

①連日降り積もる積雪に対して排雪体制の構築が整わない

②路肩の堆雪幅や雪押し空間が不足し道路路面が圧雪化

③路面圧雪化の進展とザクザク路面の発生により排雪作業が進まない

④排雪運搬経路上の路線も高積雪で道幅が狭く、運搬往復に時間を要し作業進行が悪い

⑤排雪が終了した幹線道路への雪出しが多く、すぐに幹線道路自体が狭くなる



原因

①車両機材だけでなく、オペレーターや交通誘導員などの“人”も不足

②幹線道路では路肩や歩道の一部を堆雪幅として利用できるが、生活道路になるほど構造的に堆雪スペースは不足

③圧雪路面が厚くなるほどザクザク路面が伝染・拡大する負の連鎖となり路面整正作業に追われた

④主要幹線の国道及び道道の排雪が進まず、市道も効率的な排雪にならない

⑤2月初旬の大雪（60cm）による周辺市道からの雪押しや住宅側からの雪出し

今シーズンの改善の方向性

課題①～③【除排雪体制の構築】

○既存地区の作業エリアが広く、主にバス路線を含む地区の負担を軽減 ⇒【対応策】
栄町地区外、南町地区外、沖見町地区外

○地区エリアの分割再編による新規事業者の参入を促す

課題②【一次堆雪場の確保】

○空き地に関する情報を活用し、市道除雪の一次堆雪場として利用可能な用地を確保
⇒今年度新たに3箇所を堆雪場として確保

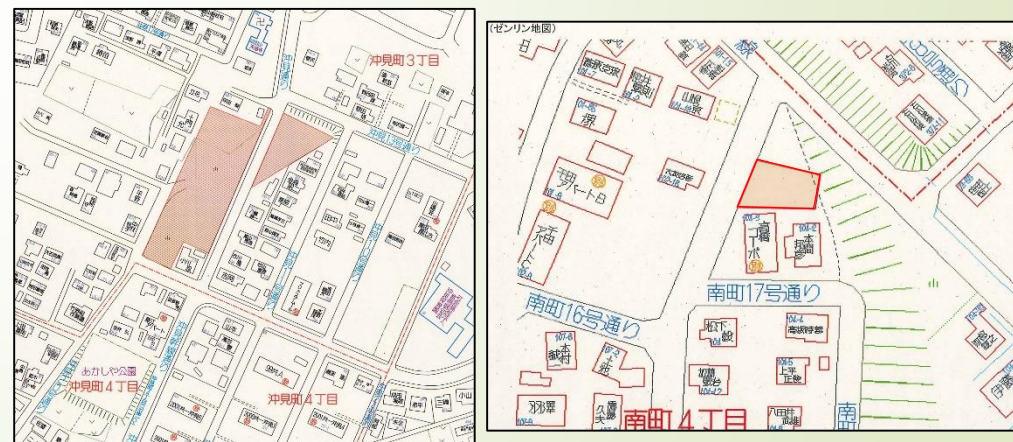
課題④【道路管理者間の連携】

○各道路管理者間の連携を強化し、情報の共有と具体的対応策の検討 ⇒【対応策】幹線ルートを優先した排雪運搬車両の調整

課題⑤【地域協働と啓発】

○要件緩和によるコミュニティ除雪の推進
⇒【対応策】家屋連担数3戸や道路幅員要件3m以上に緩和

○道路への雪出し禁止の啓発を強化
⇒【対応策】関係機関との合同啓発パトロールの再実施



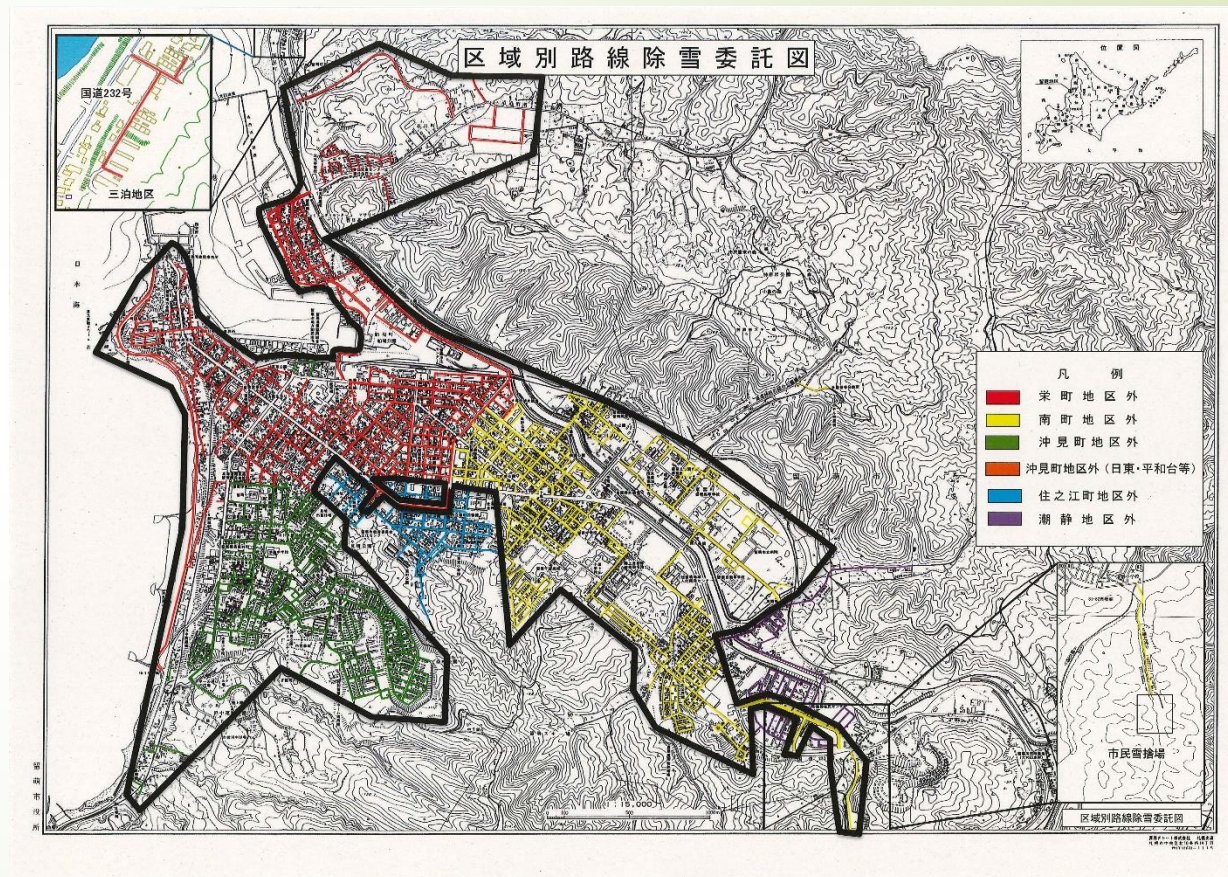
新一次堆雪場 左：沖見町3丁目 右：南町4丁目

除排雪体制改善の方策 1 課題①～③

①事業者における改善への取り組み

○令和5年度からの除雪業者の組合法人化に向けた設立準備

○令和4年度は、例年、市内バス路線を含む主要路線の除排雪を受託している3地区の堀建巧業(株)、光栄運輸(株)、(株)赤沼商会3社に加え、過去に「沖見地区外」の施工実績がある(株)北交産業を加えた4社で共同企業体(JV)を組み大雪に備えた応援体制を構築



主要路線3地区の範囲図

除排雪体制改善の方策 2 課題①～③

②市における改善への取組み

見込まれる効果

主要路線の発注方式

○除排雪地区の統合は大雪対策に柔軟で効果的な対応が可能となるとともに来年度の組合化を見据え、主要路線の「栄町地区外」、「南町地区外」、「沖見町地区外」の3地区を一括統合して発注

○地区内の事業者が1社増えたことによる業務量の緩和

○作業進行が遅れている箇所への応援体制構築によるフレキシブルな対応

その他の関連対策案

○最優先をバス路線とし、バス会社と今以上に連携を取るとともに国・道とも連携を強め、昨年のような長期間バスが止まることの無いよう体制を整えていく

○市民雪捨て場の日曜開設は、働き方改革等の問題があるものの昨年同様2箇所ある雪捨て場のどちらかを午前中開設できるよう調整したい